

平成 13 年度事業計画の推進にあたって

財ニューガラスフォーラム

会長 岸田 清作

去る 6 月 1 日の第 14 回ニューガラスフォーラム通常総会において、以下の様な平成 13 年度事業計画の承認を頂きました。

一般会計事業はほぼ従来通りですが、特別会計事業では平成 12 年度で終了する「ニューガラス高温物性測定法の標準化」および「知的基盤整備事業にもとづくガラスデータベースの構築」の二つのプロジェクトに替わって、今年度から 5 年にわたって「ナノガラス」プロジェクトを産官学の総力を結集して進めていくことになりました。既に当ニューガラスフォーラム内にナノガラス研究本部を発足させ、その準備にあたらせています。

ご承知の様に「ナノガラス」プロジェクトは国家技術戦略に沿った材料ナノテクノロジープログラムを構成する五つのプロジェクトの一つとして位置づけられており、ガラス中のナノレベルの微細構造制御をするための基盤技術を研究開発するものであります。将来、この基盤技術の中から情報通信をはじめ、エネルギー・環境分野等の発展を支える重要な高機能材料およびデバイスが生まれることを心から期待しているものであります。ニューガラスフォーラムも設立 17 年目に入り、ようやくニューガラスとしてのナノガラスを研究開発する迄に成長したと言えます。

今後とも経済産業省のご指導はもとより、会員の皆様をはじめ関係各位のご支援、ご協力を得て、これらの事業を推進致したく宜しくお願い申し上げます。

平成13年度事業計画

平成13年4月1日より平成14年3月31日まで

[I] 事業の概要

今年度の我が国経済は、昨年来 数次にわたる政府の経済対策にも拘わらず金融不安・政治不信等により消費マインドは冷えたまま推移するものと思われる。経済再建のキーワードとして「IT」「ナノテクノロジー」「環境」「バイオ」が挙げられ、これら分野での産業育成が期待される場所である。

このような状況下においてニューガラスフォーラムは、昨年度国家プロジェクトとして実施されることが決定した『材料ナノテクノロジープログラム「ナノガラス技術プロジェクト」』に対し、重点的にマンパワーを投入し、産学官協力して、将来を担う新しい技術開発に積極的に取り組んでいく。

又、平成13年4月1日に発展改組したガラス5業界団体の連合団体である『ガラス産業連合会』を通じて、多様な分野にわたる会員を有するニューガラスフォーラムの特徴を活かしながら、ガラス業界の今後の展開について論議を重ねていく。

以下、定款の箇条に従って、13年度の事業計画を述べる。

1. ニューガラスに関する産業及び技術開発動向等の情報の収集及び提供

(定款 第4条第1項第1号関係)

(1) 機関誌 “NEW GLASS” の発行

ニューガラスに関する国内外の新製品・新技術の紹介、内外のニュース、関連産業の動向、技術解説等を内容とした機関誌 “NEW GLASS” を年に4回発行し、会員等に提供する。

また、ニューガラスフォーラム・ホームページから機関誌「NEW GLASS」のバックナンバーの目次検索はもとより、内容についてもPDF（電子出版物）化し、過去の掲載記事を全ていつでも参照出来るようにする。これからもますます購読者に役に立つように、機関誌を通じて情報の提供を行うと共に、会員の掲載希望記事を積極的に取り上げてゆく。

(2) ニューガラスフォーラム・ホームページの拡充

「シーズとニーズの出会いの場を提供する」というニューガラスフォーラムの使命の達成手段として、ホームページをさらに拡充するとともに、ユーザー・会員等に向けて価値あるサービスを提供する。また、フォーラムの技術的なアクティビティーを広く国内外へ紹介していく。

(3) ニューガラス産業の普及啓発

会員の協力を得て、ニューガラスの展示を「現代ガラスの博物館」において引き続いて行い、ニューガラスの普及啓発を図る。

2. ニューガラスに関する講習会、講演会及び研究会等の開催

(定款 第4条第1項第3号関係)

(1) 研究会の開催

ガラス産業発展のための産学官交流の場、研究者・技術者育成の場として、本年度は次の2つの研究会を開催する。

①ガラス科学材料技術研究会

今年度は、「情報通信デバイス研究会」で取り上げるデバイス、モジュール、システムの実現に必要なガラス材料に関する科学と技術に焦点を当て、関連学会の新規研究成果や現場技術の進展について講演並びに議論をおこなう。産官学の第一線で研究開発に携わる方を講師とする他、本研究会の参加会員からも適時、話題を提供していただき、会員間の親睦を深める。特に当フォーラム主催のニューガラス大学院を修了した若手ならびに現役学部生や大学院生が実践のための技術を議論できる場ともしたい。また、平成13年度に開始の「ナノガラス・国家プロジェクト」関連の話題をも取り上げ議論する。

本年度は年4回開催する。

②情報通信デバイス研究会

光波長多重通信、光アクセスシステムさらには情報家電といった、ニューガラスに関連する最新の情報通信市場におけるデバイス技術に焦点を当てる。国内外のデバイス・システムの専門家による最新技術を中心とした話題提供に基づき討議を行うことにより、情報通信デバイスに関する知見を深めるとともに、参加メンバーからも随時話題を提供していただき、メンバー間の親睦を深める。本年度は4回開催する。

(2) セミナーの開催

ニューガラスの研究者・技術者等を対象にニューガラス及びニューガラスを使った応用製品（デバイス、モジュール）の最新技術動向等を紹介するセミナーを開催する。第57回から第60回までの4回を予定する。

(3) 講座の開催

1) ニューガラス大学院

本年度も、ガラス材料を専門として学んでこなかった企業の若手研究・

技術者および大学院学生を対象に、ガラス材料の基礎技術および応用技術について、大学教授・企業の幹部研究者ら各分野の一流講師を招いて、4日間16テーマの講義を実施する。

(4) 若手懇談会の開催

若手懇談会は、広く様々な事業分野から集合している当フォーラムの会員会社及び当フォーラムに関連の深い官学会の若手により、今後のニューガラスに関する新研究開発課題、新用途に関し、自由な雰囲気の中で意見交換の場を形成する。年4回の講演会を開催し、1回当たり3件の講演を予定する。また、現場を直に知る機会を設けるために、研究施設の見学会を年1回予定する。

当フォーラムのホームページ「若手懇談会」のコーナーを活用して、より広く多くの若手研究者に新しい情報を提供する。

(5) 見学会の開催

会員のニューガラスに関する知識の向上や異業種間の交流を図るため、会員企業等を訪問する見学会を年に2回開催する。

3. ニューガラスに関する国際交流及び協力

(定款 第4条第1項第4号関係)

国際ガラスデータベースInterglad

昨年度の工技院予算により開発したIntergladバージョンアップ版の機能を十二分に生かすために、収録データ等のブラッシュアップ体制を構築してIntergladの継続的な強化を図る。また、海外でのPR活動を積極的に進めることにより

Intergladの拡販を進める。

4. ニューガラスに関する標準化・規格化の調査研究

(定款 第4条第1項第5号関係)

ニューガラス高温物性の評価方法の標準化

本委託事業は昨年度で終了したが、ICG/TC18における活動を中心とした海外研究者との連携を継続させ、評価データの交換、国際標準化に向けた施策を進める。

5. ニューガラスに関する研究開発

(定款 第4条第1項第6号関係)

昨春に「テラフォトニクスガラス材料」をナショナルプロジェクト化するよう経済産業省窯業室に提案した。

これを元に、経済産業省は「ナノガラス研究プロジェクト」として補正予算で3.1億円、一般予算で6億円を計上した。これらの具体的実施者である新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から補正予算の公募が2月2日にあり、3月13日に公募が締め切られた。本予算の公募は3月16日にあり、5月9日が締め切りである。補正予算に関しては、3月28日付で当フォーラムが委託先に選定された。補正予算の応募内容は光メモリ技術に関するもので、会員の中から応募のあった(株)日立製作所と日本板硝子(株)が参加する。なお、補正予算で使用される装置・機器類は引き続き本プロジェクトで共有され使用される予定である。本予算に関しては応募中である。

6. ニューガラスに関連のある団体、学会及び研究機関との協力

(定款 第4条第1項第7号関係)

(1) ガラス産業連合会関係

ガラス産業技術戦略

ガラス産業連合会 技術戦略調査特別部会の事務局として参画し、「ガラス産業 技術戦略2025年」ロードマップ関係を中心とした見直しに取り組む。

(2) (社)日本セラミックス協会、新素材関連団体連絡会その他内外のニューガラスに関連のある団体、学会及び研究機関の事業に協力し相互の連携を図る。

平成13年度収支予算総括表

(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

(収入の部)

(単位:千円)

大科目	予算額 (A)	前年度予算 (B)	増減	備考
			(A)-(B)	
一般会計事業収入	80,850	71,822	9,028	
会費収入	64,000	57,700	6,300	
事業収入	16,350	10,802	5,548	
退職給与引当金預金取崩収入	0	3,000	△ 3,000	
雑収入	500	320	180	
データベース事業収入	6,500	6,700	△ 200	
データベース販売高	6,500	6,700	△ 200	
高温物性事業収入	0	24,000	△ 24,000	
日本規格協会受託費	0	22,000	△ 22,000	
高温物性参加費	0	2,000	△ 2,000	
知的基盤整備事業	0	312,359	△ 312,359	
工業技術院受託費	0	312,359	△ 312,359	
ナノガラス薄膜事業	304,000	304,000	0	
ナノ技術石特 NEDO 受託費	246,810	0	246,810	
ナノ技術IT特枠 NEDO 受託費	342,977	0	342,977	
当期収入合計 (d)	981,137	718,881	262,256	
前期繰越収支差額	43,952	40,030	3,922	
収入合計 (e)	1,025,089	758,911	266,178	

(支出の部)

(単位:千円)

大科目	予算額 (A)	前年度予算 (B)	増減	備考
			(A)-(B)	
一般会計事業支出	75,096	63,351	11,745	
事業費	18,480	16,082	2,398	
管理費	47,066	43,569	3,497	
退職積立金	1,000	1,000	0	
高温物性積立金	5,050	0	5,050	
消費税	3,500	2,700	800	
データベース事業支出	6,000	6,700	△ 700	
事業費	4,000	4,700	△ 700	
管理費	2,000	2,000	0	
高温物性事業支出	0	24,000	△ 24,000	
プラント・機械装置等開発費	0	0	0	
労務費	0	5,771	△ 5,771	
消耗品費	0	15,181	△ 15,181	
租税公課・他経費	0	1,048	△ 1,048	
雑費	0	2,000	△ 2,000	
積立金	0	0	0	
知的基盤整備事業	0	312,359	△ 312,359	
委員会費	0	2,015	△ 2,015	
試験経費	0	251,392	△ 251,392	
調査費	0	2,095	△ 2,095	
報告書作成費	0	2,565	△ 2,565	
共同研究費	0	26,465	△ 26,465	
事務局費	0	12,953	△ 12,953	
消費税	0	14,874	△ 14,874	
ナノガラス薄膜事業 NEDO 受託費	304,000	304,000	0	
ナノ技術石特 NEDO 受託費	246,810	0	246,810	
ナノ技術IT特枠 NEDO 受託費	342,977	0	342,977	
当期支出合計 (f)	974,883	710,410	264,473	
当期収支差額 (d)-(f)	6,254	8,471	△ 2,217	
次期繰越収支差額 (e)-(f)	50,206	48,501	1,705	